

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいつくしみの郷
(ユニット名)	3階
所在地 (県・市町村名)	静岡県浜松市浜北区平口2406-1
記入者名 (管理者)	鈴木良美(長尾直実)
記入日	平成 19 年 9 月25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「気持ちの良い生活」をスローガンに掲げ、ホームの理念とし、日々努めている。	○ 引き続き行いたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	どうしたら良いのか分からなくなったとき、常に原点の理念に戻り、話し合いをしている。毎月フロア毎のミーティング、月1回の勉強会を行い、振り返りが出来るようにしている。	○ 引き続き行いたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関の見やすい場所に運営理念を掲示しており、いつでも誰でも見て頂けるようにしてある。また、入居時にご家族に充分説明しており、質問なども受け、きちんと答えている。また、家族、自治会などとの定期的な会合を持ち、理解と協力を求めている。	○ 今後更に、地域の人々にも理解して頂けるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時にこちらから挨拶をすることで顔を覚えてもらい、いまではすれ違うと隣近所の方から、声を掛けていただいている。	○ 顔を覚えて頂いたので、散歩時など声を掛け、ホームに立ち寄ってもらえるようにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平口幼稚園の行事(芋掘り、夏祭り、敬老会など)にいつも参加させてもらい、交流をしている。また、散歩の際、立ち寄り、園児とふれあっている。	○ 自治会へ参加するまでの余裕はまだないが、出来ることはないか職員間で話し合っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームでの生活に追われ、地域に役立つことを考える余裕がない。	○	今後、取り組んでいけるように話し合いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価する意義を理解した上で、ひとりひとりが自己評価する事により、改善点に気づき、皆で話し合い実践に取り組んでいる。また、外部評価の結果を受け止め、改善に努めている。	○	外部評価の結果を受け止め、今後のサービス向上に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各階ごとに毎月の様子を報告し、ご家族、地区の方、区役所の方、の意見や質問を聞いてサービス向上に活かすよう努力している。話し合いの内容は、会議に参加できなかった人にも文書化して報告している。	○	会議をどのように運営していくか検討中である。実のあるものにしていけるように努力したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度介護支援相談員の訪問をお願いしている。その内容を書面にて郵送してもらい、職員が提供しているサービスの振り返りの材料としている。	○	今後も介護支援相談員の訪問を取り入れ、サービス向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ、ケアマネージャーである管理者と1階計画作成担当者は、必要時対応できるよう学んでいる。	○	勉強会などを開いて、皆で理解していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令の回覧をして、把握に努めている。また、勉強会にて、認知症とのかかわりを常に繰り返し学んでいる。	○	入居者の気持ちや、変化に気付けるよう注意していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	今後も継続していきたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	今後も介護支援相談員の訪問をお願いしていくと共に利用者が気軽に職員に意見等を言える雰囲気作りをしていきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	おたより、金銭管理の報告はこれからも継続し、職員移動に関しては検討していきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	今後も継続していきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	今後も職員が働きやすいようし支援していきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	可能な限り、要望にはこたえていきたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	ナイーブな部分のことなので充分配慮したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会等の公的な研修には、順番に出席させている。また、施設内においても、勉強会をしており、講師を順番に担当してお互いを啓発しあう機会を作っている。	○ 今後も継続していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、いろいろな情報を得ている。その他、公的な研修には必ず数名出席させている。	○ 勉強会や、交流の機会の情報を幅広く仕入れていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に数回、懇親会を開くための協賛金の提供がある。年末には、大忘年会にて全職員が交流を楽しむ機会がある。また、勤務表作成時は、休日希望を必ずとり、希望が叶えられるよう工夫している。	○ 今後も引き続き、取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	計画作成者の努力を認め、手当てをつけてくれた。また、要望等はほぼ全て受け入れてもらっている。	○ 今後も各自が向上をもって働けるように努めていきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居当初は特に気にかけて、一緒にいる時間を多くとり、困っていることなどはないか聞いている。また、居室などでゆっくり話をする機会を作っている。ご本人のありのままを受け止めるように努めている。	○ 継続していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に「センター方式」にて、アセスメントをとっている。その際、ご家族の思いをよくきくようにしている。面会時は職員から話し掛け、ご家族が、不安に感じている事や、こうしてほしい事などを聞いて受け止め、答えるようにしている。	○ 継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に、グループホームへの入居が最適であるのかどうかの見極めをし、第三者的な立場で相談に応じている。	○	相談者の立場に共感し、解決できるように支援していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学は自由に来て頂いている。また、入居後の外出・外泊は特別制限していない。ご家族や、ご本人に今までの生活や、性格をよく伺い、実際に一緒に生活し、周りとの関わりの様子を見てサービス提供している。	○	継続していく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除の仕方を教わったり、昔の事を聞いたり、生活の様々な場面で頼りにしている。そして一緒に暮らす事で、入居者・職員は互いに支え合っている。	○	人生の先輩としての気持ちを大切にしながら、援助する時はさり気なく行い、支えあう関係を築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	例えば、入浴時の洗髪の介助・声掛けに対して、抵抗のある方は、ご家族の協力を得て、週に1度入浴の介助行っていた。常に、ご家族に相談し、ご本人にとって何がいいのか話し合い実践している。	○	今後も同じ目標を持ち、援助していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人、ご家族に互いの話をきくことにより、理解を深めるよう努めている。	○	今後も同じ目標を持ち、援助していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの店へ行く。そこで知人に会いおしゃべりするのを楽しみにされている。ご家族の協力もあり、馴染みの美容院へ出かけられている。面会も歓迎している。	○	入居時に本人のなじみの場所や人を聞き、出来る限りの支援をしていく。また、家族にも協力して頂くように声をかけていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	輪の中に混じれるようにさり気なく声掛けをしたり、一緒に散歩に出かけている。困ってる人に、職員のかわりに入居者に声掛けをお願いし、支え合っている。	○	職員は常に気にかけて、安心して過ごせるよう援助していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームを退所し、病院に入院した利用者の面会に行っている。	○	継続的な関わりを必要とする。利用者や家族がいればその関わりを大切にしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ここでの暮らし、ご本人の思いは一对一の場面で直接ご本人に伺っている。ご本人が意志を伝えるのが困難な場合はご家族などに伺っており、職員は常に、利用者が「どういう気持ちか」を考えて援助するよう努めている。	○	今後も継続していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとりひとりのこれまでの暮らしについては、入居前にご家族に伺っており、入居後もご本人の話から情報を得ている。	○	今後も継続していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとりひとりの生活記録を記載し、一日をどう過ごしているか、どのような変化があったかなどを業務に入る前に目を通し、皆で情報を把握できるようにしている。	○	継続していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まず、ご本人にどう暮らしていただきたいか伺うようにしている。フロアミーティングにて職員間の意見交換、その後会議にて発表しケアマネ、看護師と相談している。家人面談にてプラン発表し、ご家族とも話し合い介護計画を作成している。	○	継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて評価をし、本人の現状に合ったプランに作成し直している。また、期間の途中であっても病院等から退院後などはプランを作成し直している。	○	現在の介護計画とご本人の状況が合わなくなった時に、現状に即した新たな介護計画を作成していくようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に記入している。更に詳しい事は別の生活記録を参照し、皆で共有しており、それぞれ勤務に入る前に目を通している。また、ミーティングなどで話し合い、実践や、プラン見直しに活かしている。	○	継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	いつでも本人、家族の希望に添えるよう、制止することなく応じている。	○	継続していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	万葉の森・森林公園・市の図書館の利用や、平口幼稚園の行事参加等させて頂いている。	○	利用できる施設の幅を広げていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用できない。ただ、退居する際の居宅の紹介等はしっかりさせて頂いている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネジャーの研修での交流はあるが、施設自体の協働作業はない。	○	グループホームとしての接点があれば今後協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師が主治医となり、常に連携している。	○	継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の医師が主治医となり、常に連携している。	○	継続していく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師に相談しながら、健康管理を行っている。	○	継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	施設管理者が、看護師を兼ねており、協力病院との情報交換は密である。	○	今後も連携していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体調の変化に合わせて家族と今後にちて話をする機会を設けるようにしている。	○	継続していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	基本的には医療行為が必要になったときは、病院等に転院となるが、体調の変化があった場合でも、出来るだけホームで心地よい生活が出来るように主治医、看護師が連携している。	○	ホームでの援助がどこまで出来るのか主治医・看護師等と常に検討し、利用者がより良く暮らせるよう取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅復帰される場合は、退居前に居宅のケアマネージャーとの面談をセッティングする。病院他施設系に移られる際は、申し送りを充分に行い、本人が困ることの無いように準備。サマリー等も用意している。	○	今後も臨機応変に対応していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレの声掛けや、入浴中の声掛けなどは羞恥心に充分配慮して行っている。また、何でも自分一人できると思っている方に対しては職員の声掛けに気分を害してしまわぬよう、声掛けを最小限にし、さり気なく見守りを行っている。できない部分はご本人に気づかれぬようそっと援助している。	○ 継続していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何をすることもご本人の意見を聞く。何かを選択する時は範囲を狭め、ご自分で決定できるようにするなど、個々に対応の仕方を合わせている。そして、ご本人が納得しない事はやらない。	○ 継続していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や、買い物、神社へのお参りなどの外出もご本人の意に添って出来る限り出掛けられるようにしている。ひとりひとりのペースに合わせて職員が動いている。訴えの強い人が優先されてしまっている状況。	○ 自分から訴えや、希望が伝えられない人は何がしたいのか常にさぐり、家族にも伺い、その人らしい暮らしが続けられるよう援助していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なじみの店がある方はご家族と共に出掛けている。化粧、ブローチ、ヘアピン、指輪などそれぞれがしてきたおしゃれができるように援助している。	○ 継続していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1の欠食作りは、食べたい物を聞いて、一緒に買い物へ行き、入居者に教えてもらいながら行っている。毎食の配膳・片付けも一緒に行っている。	○ 一緒書に生活している仲間とし、人生の先輩という気持ちを忘れないで今後もさり気なく援助し、頼りにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶があまり好きではない方には牛乳や、ポカリを提供している。買い物時には、好みのお菓子など購入されている。また、事前にご家族にご本人の嗜好を聞いている。	○ 今後もひとりひとりに合わせて提供していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録表を使い、排泄パターンを把握でき、ひとりひとりに合った支援ができるようにしている。失禁し、紙パンツだと自分で脱ごうと思えず、介助に抵抗ある方が、布パンツにしてから、自分で気づいたり、こちらの声掛けに応じてくれるようになった。	○	継続していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中に入りたい方、寝る前に入りたい方などひとり一人に合わせて行っている。タイミングや声掛けをそれぞれかえており、その方が気持ちよく入浴できるように援助している。	○	継続していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後など「休みたい、寝たい」と訴えがあったときは適度な休息をとってもらおうよう心掛けている。就寝前は落ち着いて過ごせられるように援助している。その人に合った生活パターンが維持できるように援助している。	○	継続していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人が好きな話を振り、お話してもらったり、得意なこと(詩吟、踊り、歌、生け花、絵を書くなど)をする場面を作り、ひとりひとりがいきいきとした姿が出せるよう支援している。	○	今後も本人が得意なことや好きなことができるように援助していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができない方はこちらで預かっているが、買い物に出掛けた際には財布を渡し、支払いをしてもらい、見守る。また、ご家族、ご本人の希望にて小銭程度をご本人に所持してもらっている。	○	お金を持つことの大切さや、支払いが自分でできるんだという自信が持てるように援助していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「足が悪いから迷惑になる」という思いからなかなか自分から訴えられない方には職員からの声掛けにて外出している。いきいたい所がある場合は、ご本人の行きたい所へ行けるよう支援している。	○	自分からなかなか訴えずらい人などはこちらからの声掛けを積極的に行い、屋内にこもりっぱなしにならないよう援助していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別で、グリーンアリーナで開催されたイベントに参加したり、街のほうまで美術展を鑑賞しに行ったりしている。また、ご家族と共に旅行や同窓会、御見舞いや、遠くまでドライブされる方もいる。	○	入居者に行きたい所を聞いて可能な限り実現していきたい。また、家族の協力も引き続きお願いしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらっている。ご家族、友人にハガキの返信ができるようにこちらから声掛け、支援をしている。	○	継続していき、電話や手紙で大切な人と交流ができるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は歓迎しており、居室などでゆっくり過ごせるようにしている。食堂でも、他入居者も会話に混じり、過ごされている。また、訪問者は、面会者名簿に記入してもらい、いつ・誰がたずねたのかをわかるようにしている。	○	継続していく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り強化し、転倒などの事故を防いでいる。	○	継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ひとりひとりの様子をさり気なく観察し、外に出たがっているサインを見逃さないように、外に行きたい時に出られるように援助している。	○	すぐに出られない状況な時にはいつ行けるか約束し、その間待つことへのストレスがたまらないように援助していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在の把握に努めている。姿が見えない時はさり気なく所在確認、一人で居室にこもりっぱなししている場合は、声を掛け、一緒に話したり、ご本人の様子を伺う。	○	継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	シャンプー、石鹸、ポリデント、など、ひとりひとりに合わせて、こちらで預からせていただいたり、居室に置いたりとしている。	○	継続していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	居室に転倒防止マットをしいている。見守り、声掛け、介助をひとりひとりに合わせて行うことで事故防止につなげている。	○	個別のプランのサービス内容を職員全体で把握し、日々確認しながら援助していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルに職員全員が目を通し、勉強会で学ぶ機会を得ている。	○	訓練は行われていないので、取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度、隣接している施設との防災訓練を行っている。双方で協力体制ができています。	○	継続していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	歩行不安定な方の外出時には、補助具が必要だが、自分の足で歩けるというご本人の思いを大切に、一対一で職員が付くようにしており、すぐ手の貸せるよう注意深く見守っている。	○	今後も家族面談時や面会時によく話し合い、援助につなげていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い、会話や、様子観察し体調の異変に気づいたら、すぐに看護師に相談し、指示を仰いでいる。	○	継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報ははさんでおり、常にすぐ確認できるようにしてある。それぞれが確実に内服できる方法をとっている。	○	薬の用量、内服の確認についてのマニュアルを作成する。処方箋により目的・副作用等についても確認ができるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、プルーンなどえお食べたり、繊維質の物を献立に取り入れるなど対応している。積極的に外に出掛けられるよう援助している。	○	今後もなるべく薬に頼らず排便できるように援助していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けのみで出来る方、傍について終始見守り、声掛けが必要な方などそれぞれにあわせておこなう。	○	毎食後の歯磨き等できるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食チェックしている。充分水分がとれるように随時声掛けをおこなっている。食事がとれない場合、ご本人の好きな物や、おにぎりや、おかゆ、プリンなど食べやすい物を提供している。	○	継続していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症の知識を深め、消毒方法などの細かい取り決めに沿って予防している。	○	手洗いうがいを強化していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事準備手伝って頂く時は必ず石鹸で手洗いしてもらう。湯のみ、茶碗などその日使った物は、毎夜消毒をしている。	○	冷蔵庫の定期的なチェックを継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花や、木を植えている。	○	継続していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはカレンダーをかざっている。廊下には毎月のお便りや写真など飾っている。散歩で摘んできた草花を飾り、季節をかんじてもらえるようにしている。	○	異常があった時はすぐに修理して対応していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や、職員室にはソファがあり、いつでも誰でも利用でき、そこで長時間おしゃべりされている方、本を読まれている方、絵を描く方もいる。	○	今後も思い思いに過ごせるように援助していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や、昔からなじみのある物を置いてもらうようにしている。ご自分が使いなれた物や親しみのある物を置く事で、居心地良く安心して過ごせられるように援助している。	○	継続していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房の温度調節に配慮しており、体調崩さぬように注意している。朝、夕、清掃時には窓を開け、換気をしている。	○	継続していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室は一般のお風呂と同じような作りであるが、椅子や手すりを設置しており、一人でも入浴しやすくなっている。居室には、クッション材を置き、転倒の際、ワンクッションあるように工夫している。	○	今後も一人ひとり身体機能を活かして生活できるように援助していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食器類とテーブルの席に名前のシールを貼る事で入居者同士相談しながら、配膳したり席を迷ってる方におしえたりしている。居室ドアに名前や写真を貼ってご自分の部屋だと認識しやすいようにしてある。	○	今後もさり気ない声掛けや援助をし、自尊心を傷つけぬよう注意し、自信を持って生活できすようにしていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに物干し竿をおいており、一緒に洗濯物を干している。	○	ベランダをもっと活用していきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎月の行事 おたより作成に力を入れている。また、職員は入居者に対して常に共感した態度をとるように心掛けている。